

# 設置計画の概要

		事前伺い									
		学部の学科の設置									
		コクリツダイガクホウジン ヨコハマコクリツダイガク 国立大学法人 横浜国立大学									
		ヨコハマコクリツダイガク 横浜国立大学 (Yokohama National University)									
		<p>① 芸術文化に関する幅広い知識・技能を修得し、社会における創造性を発展させる仕事に活躍できる人材。 国内外の社会文化に関する幅広い知識・技能を修得し、社会における公共性を発展させる仕事に活躍できる人材。 都市文化に関する幅広い知識・技能を修得し、都市文化に関する専門的知識・技能を深める準備のできた大学院進学者。</p> <p>② メディア文化に関する幅広い知識と、運用の具体的スキル 国内外のさまざまな文化に関する幅広い知識と、言語運用力も含めたコミュニケーションと折衝の能力 グループで作業し、ともに高めあう協調性とリーダーシップの涵養 現代社会において問題の所在を発見でき、その解決への方途を構想できる調査・分析能力</p> <p>③ 日本と海外で事業を展開する企業・法人の職員、公務員、旅行会社、キュレーター、メディア編集関連、メディアコンテンツ作成関連、NGO、NPO職員、国内外での日本語教員、中学校・高等学校の社会科教員など。</p>									
		<p>① グローバル化した21世紀の諸問題について、柔軟かつ創造的に対処でき、新しい社会の中核として活躍する人材。</p> <p>② 人間に係わる諸課題を総合的、かつ多角的な見地から理解するとともに、高度な情報リテラシー、知識のネットワーク技法、環境やコミュニティーに対する理解力や認識力を培い、実践的に対応する資質を身につけさせる。</p> <p>③ 小学校・中学校・高等学校教員、公務員、公益法人の職員、教育関連、マスコミ関連、文化芸術関連、大学院進学など。</p>									
		1									
		1									
		1									
		1									
教育人間科学部 (Faculty of Education and Human Sciences)	人間文化課程 (Course of Human Studies)	4	150	-	600	学士 (教養)	教育学・保育学関係、文学関係、社会学関係、美術関係	平成23年 4月	学校教育課程	4	3
									マルチメディア文化課程	3	0
									国際共生社会課程	9	5
									計	16	8
									計		
教育人間科学部	学校教育課程	4	230	-	920	学士 (教育学)	教育学・保育学関係	平成9年 10月	学校教育課程	88	47
									理工学部数物・電子情報系学科	1	0
									退職	13	13
									計	102	60
									計		
教育人間科学部	地球環境課程(廃止)	4	50	-	200	学士 (教養)	教育学・保育学関係	平成9年 10月	理工学部建築都市・環境系学科	6	4
									理工学部化学・生命系学科	5	2
									退職	4	4
									計	15	10
									計		
教育人間科学部	マルチメディア文化課程(廃止)	4	90	-	360	学士 (教養)	教育学・保育学関係	平成9年 10月	理工学部数物・電子情報系学科	7	4
									人間文化課程	3	0
									学校教育課程	1	0
									都市イノベーション学府	5	3
									退職	1	1
計	17	8									
教育人間科学部	国際共生社会課程(廃止)	4	90	-	360	学士 (教養)	教育学・保育学関係	平成9年 10月	学校教育課程	5	5
									人間文化課程	9	5
									都市イノベーション学府	6	2
									退職	4	3
									計	23	14

**【備考欄】**

入学定員の変更

(改組前)

学校教育課程	入学定員	230人	⇒
地球環境課程	入学定員	50人	⇒
マルチメディア文化課程	入学定員	90人	⇒
国際共生社会課程	入学定員	90人	⇒

(改組後)

学校教育課程	入学定員	230人
人間文化課程	入学定員	150人







		1 2 3 4	1												2
		1 2 3 4	1												3
		2 3 4	2												2
		1 2 3 4	1												2
		1 2 3 4	1												2
		2 3 4	2												2
		2 3 4	1												1
		2 3 4	1												1
	31		0	40	0										54
		1	2												
		1 2 3 4	2												13
	2		0	4	0										13
			2												1
	1		0	2	0										1
		1 2 3 4	2												
		1 2 3 4	2												
		1 2 3 4	2												
		1 2 3 4	2												
		1	1												1
		1	1												
		1	1												
		1	1												
		1	1												
		1	1												
		1	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	1												
		1 2 3 4	2												
		1 2 3 4	2												
		1 2 3 4	2												
	20		0	27	0										5
		1	2												
		1	2												
		1	2												
		1	2												
		1	2												
	5		10	0	0										0
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
		2 3 4	2												
	15		0	30	0										1

		1	2										
		2	2										
		2	2										
		3	2										
		3	2										
		5	-	10	0	0							
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	3 4	2										
	(	3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	2 3 4	2										
	(	3 4	2										
	(	3 4	2										
	I	2 3 4	2										1
		3 4	2										1
		2, 3, 4	2										1
		2 3 4	2										1
		2 3 4	2										1
		4	3										3
		20		0	41	0							3
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		3 4	2										
		3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		3 4	2										
		3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		3 4	2										
	( )	2 3 4	2										
	( )	2 3 4	2										
	( )	2 3 4	2										
	( )	3 4	2										
	( )	3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		2 3 4	2										
		3 4	2										





他方、文部科学省「平成21年度大学教育改善のための戦略的都市連携支援プログラム」には、「横浜文化創造都市スクールを核とした都市デザイン/都市文化の担い手事業」が採択され、そこではマルチメディア文化課程メディア研究講座の教員を中心に広く他大学の都市デザイン/都市文化の専門家も招いて「横浜文化創造都市スクール」が開設され、都市についての基礎的な科目群を開講し、運営されている。1928年竣工の旧帝倉倉庫事務所ビルに本拠を置く「横浜文化創造都市スクール」(通称「北仲スクール」)は、多様な基礎科目によっても知名度を増しているが、さらに、サブカルチャーを主題にした連続公開講座「サブカルニッポンのアーキテクチャ」、ワークショップ科目として開講した、黄金町の映画館ジャック&ベッティを借り切った開催した若手映画作家の連続上映会「未来の巨匠たち」シリーズや、川崎の巨大な体育館で開催された現代美術家・椿昇展等、大規模な文化発信の基地にもなり、多くの関係者に認知されている。

このような諸般のプロジェクトやプログラムの実施によって得られた教育上の方法的成果と研究上の知見を基礎として、それらの実施母体でもあった既存の2課程を統合することで、そして、すでに大学院の横浜建築都市スクール(Y-GSA)で実践され、実務的教養、リーダーシップ、協調性の涵養を図ることのできる「スタジオ式教育」を学部1年次後期から導入することで、教育研究をさらに発展させ、広く発信する目的をもって、人間文化課程へと改編し、カリキュラムを整備するものである。

#### [新たな人間科学の可能性を視野に入れた人間文化課程]

人間文化課程の必要性は、本学が設置されている横浜市の立地からも、本学の組織の改編の必要性からも説明できるが、それ以上に、人間文化課程が問われるのは、人間科学一般の大きな変容を背景にした新たな教育組織の必要性である。

70年代のフランスでは、それまでの人間諸科学——文学、経済学、哲学、社会学など、それぞれ蛸壺化した学問領域が、再審に付され、哲学と文学、芸術学と精神分析学など、ある一分野の専門的な知識を深化させるのではなく、「隣接した別の領域」と融合することで、新たな視点がそれぞれの領域で発見されるようになる。また同時代のイギリスでは一つの文化現象に様々な分野の知が動員され、その現象の解説が行われるようになる。カルチュラル・スタディーズの誕生である。人間文化課程が、こうした人文知の再構築の影響下にあるのは当然である。同時代の都市における様々な人間たちが作り出す芸術文化、そして彼らの生み出す社会にある問題の解決に当たるためには、ひとつに固定化した学問領域の中に留まることなく、ある現象に着目するときにも常に「隣接諸科学」との協働によって問題を把握する方法をとることになる。そうした人間諸科学全般の大きな変容の中で、新たな問題把握能力や発信能力を準備するの、人間文化課程の目的になる。

人間諸科学の変容を背景として、さらに、前述した設置の背景にある横浜市という本学が立地している条件を考慮すると人間文化課程には次の2コースを設置するのが適切である。本学が立地する横浜市において、旺盛な活動を示している芸術文化の創造を支援し、それを支える人材養成を目的とした「芸術文化コース」と、横浜においてはその立地の条件からすでにその問題が顕在化しており、将来において日本各都市で同種の問題に直面することになるはずであり、多元文化を背景にした社会における様々な問題を分析し、それを解決する能力を持つ人材の養成を目的とした「社会文化コース」である。

#### (b) 教育人間科学部に設置する理由

教育人間科学部に併置される課程として学校教育課程がある。

教員養成を目的とする学校教育課程では、人間文化課程が提供する社会分析基礎論、サブカルチャー概論、国際開発支援概論等の授業の内容に当たる部分は、教育科学、教科教育学、教科内容学を中心として構成される教員養成プログラムでは必ずしも十分に担保されていない。だが、現代社会の中に存在する学校の教員にとって、同時代の人間文化を構成するこれらの科目を履修する可能性を与えることは、未来の教員に大いに資するものがあると同時に、本学部から学校教育に携わる人材を送り出すときの特長になり得る資質を与えることになる。

現代的な都市社会の芸術文化創造とその社会における分析・問題解決能力を養成する人間文化課程の学生にとって、学外活動・学外学習、特別支援基礎論など学校教育課程が提供する科目は、現代の社会で多様な創造活動を行う際、必要不可欠なものであり、人間文化課程の学生にとっても、学校教育課程が提供する科目は魅力あるものに映る。

そして2年次生を対象にして、学校教育、人間文化の両課程が連携して課程間連携共通科目群を運営することで、2つの課程は、よりいっそう相互補完的な関係になる。日本語教育、特別支援教育など、2つの課程にまたがって開講される科目は、社会の持続的発展と社会的マイノリティへの理解と協働への途を開くものである。課程間連携共通科目群は、2つの課程を架橋する役割ばかりではなく、1年次において導入された人間文化の基礎を学習する必修基礎科目で触れられた人間文化の諸分野をより深化させる方向で学習する諸々の概論という役割も持っている。

つまり、2つの課程が同じ学部の中に存在することで、次世代の人間文化・社会の持続的発展を実践的に支えていくための教育資源をより効率的に活用することができ、学校・地域さらに社会が協働して社会の教育力を支えることに寄与することになる。

#### (c) 養成する人材

人間文化課程では、現代の社会・文化の抱える複雑な課題の発見の能力、対話と解決提案の能力、文化・社会の持続的な発展のための企画立案と運営の能力、さらに異文化の間に立って媒介者として双方向的に活動・折衝できる能力などを備えた人材の養成を目的とする。

#### ○芸術文化コース

##### [基本的な考え方、および到達目標]

高校では、ほとんど触れられないことのない芸術諸分野の現代的な状況についての知識と理解から出発(1年次)し、日本国内の社会問題を考える際に不可欠であるばかりでなく国外からの注目を集めるサブカルチャーを含めた文芸、映像、音響、現代アートの分野について、その歴史と現在についての十全な知識を与え(2年次から3年次)、さらに、スタジオ科目(1年次から3年次)を通じて、それらの創造の現場の傍らに立ちつつ、クリエイターをめざす者、作品の媒介者としてキュレーション、批評活動・編集活動をめざす者、公共の側からそれら創造活動の支援を行う道を選ぶ者などの養成が、芸術文化コースの人材養成の基本的な考え方である。

その基本的な考え方に沿えば、芸術文化コースの教育に主に携わることになる旧メディア研究講座の教員には、その経験や成果においても、誇れるべきものがあると思われている。マルチメディア文化課程時代から、横浜芸術文化振興財団の資金と援助を受け、BankART Studio NYKで開催した「Re: DESIGN展」、東京芸大映像研究科と協働した、新宿のシネマコンプレックス、バルト9における学生映像展、劇作家・俳優・元メディア研究講座教授の唐十郎に師事し現在も展開中の「劇団唐ゼミ」、そして数々の「北仲スクール」における基礎科目、ワークショップの経験の延長線上に、芸術文化コースの人材養成が存在している。すでに優れたキュレーター、映画作家、編集者などを輩出しているが、人間文化課程では、当初から実践的な科目であるスタジオ科目が準備されているため、従来、単位化するのが困難だった上記のような実績を教育プログラムとして実践することで、履修者に大きなモチベーションを与えることができる。

またBankARTやYCCを代表とする横浜の各所に点在するアート・イニシアティブによる街づくりの実践も、具体的にスタジオ科目の中に採り入れたり、3年次から開講する各教員の演習科目の中に位置づけることが可能である。そうすることで、従来の理論的には充実していた教育体系の上に、より強い実践性を加味して、学生たちが立てた問題が、現実の都市の中で別の問題に遭遇する姿や、それらの問題が解決する様を实地で学習することができるようになる。もちろん、そのような授業における体験は、全国に先駆けてアート・イニシアティブによる街づくり(芸術活動を、荒廃した地域における街づくりの原動力にしていくこと)を実践している横浜市ばかりに役立つわけではなく、各地の美術館や地方公共団体の文化担当部局からも強い期待を寄せられている。

それらの強い期待に十全に応えるためには、まず何よりも、現代の芸術文化についての深い知識を備える必要があり、その知識を多様な芸術活動の中にもどのように活かしていくのかという方法が必要であり、実践の経験が何より重要である。芸術文化コースには、現代芸術各分野についての授業科目を持ち、その背景にある思想についての授業科目もあり、実践的なノウハウを教える文化マネジメントの授業もある。そしてマルチメディア文化課程や「北仲スクール」で蓄積したノウハウを活かして、芸術文化コースからは、芸術文化の先端的な知識とそれらを実践的にマネジメントできる基礎的な能力を身に着けた人材を養成することを到達目標としている。

## ○社会文化コース

[基本的な考え方、および到達目標]

人間の頻繁な移動がおこなわれ文明の混交が進んでゆく中で、グローバルであると同時に、これに對置されるローカルな視座の双方を具えた「グローバル」な人材の育成こそが将来的な社会のニーズとしてクローズアップされている。グローバルな普遍性に目を向けながら、ローカルな特殊性への意識を涵養する人材養成の基本姿勢は、世界という文脈の中で日本を客観的に捉える視座を養うとともに、新たな見地から日本を世界に向けて発信しようとする際に重要性を持つからである。

こうした基本姿勢に則り、本コースにおいては、

- ①地球社会創造:グローバルな視座の中で複雑多様化する世界の現状について学び、それらの現状に対する連帯を養い、国際社会における新たな交流と協力へのノウハウを身に付けること。
- ②地域社会創造:世界の中の日本というローカルな側面に光を当てつつ、地域におけるグローバル化の諸問題を背景にした地域社会のあり方について学ぶこと。
- ③文化コミュニケーション:グローバルとローカルのせめぎあいを文化の側面から捉え、多文化共生といった視点を涵養すること。
- ④生きる力:自己実現やイノベーションに優れた能力を発揮すること。

という4つの能力を身に着けた人材を養成する。

本コースの到達目標は、国際都市横浜に立地する大学という特徴を十全に活用しつつ、グローバルかつローカルな視座を養い、それを実践的な行動力へと展開できることである。グローバルかつローカルな視座とは、現代社会に具わった内容やその意義を理解する方法であり、それを哲学・思想、歴史学、社会学、国際学に関する知識と外国語・日本語の実践的運用能力の涵養を介して身に着けさせることを目標とする。

そのために海外提携校や横浜における国際高等教育機関との交流を行い、横浜の国際化に関するフィールドワークや各種国際機関との提携等に基づく企画実践を「スタジオ科目」を通じて行っていく。その結果、問題を知覚し認識しながら、それらを課題として設定し分析できる力を養い、課題を解決するためのプランを創出し、それを的確に表現する力＝表現スキルを持ち、それをフィードバックして再検証できる能力を獲得することができる。同時に、実践的技能資格、即ち博物館学芸員ならびに社会調査士の資格や日本語教員資格の取得の道がある。

### (d) 課程の名称及び当該名称とする理由

教育人間科学部とは、学校教育と人間諸科学を総合的に連携させ、人間諸科学の現代的素養を持った教員を養成し、同時に、人間諸科学の現代的な成果を現代文化の持つ多様な問題に応用しながら、現代の社会の持つ問題を解決に導き、豊かな芸術文化の創造によって社会の持続的な発展をめざす人材を養成する目的を持つ。従って課程名称は「人間文化課程」がふさわしい。そのような条件の下に、教育人間科学部には、教員養成を目的とした「学校教育課程」と現代社会における問題解決と創造活動を支援する「社会文化コース」と「芸術文化コース」を持つ「人間文化課程」の2課程が併置される。教育人間科学部での教育のうち、「学校教育課程」では教員養成を、「人間文化課程」では、人間文化の視点から人間諸科学の人文科学分野を担うことになる。もちろん、両者には密接な関係があり「人間文化課程」の豊かで先端的な成果が、「学校教育課程」の明瞭な目的を持った人材養成に活かされ、「学校教育課程」で長年に亘って培ってきた教育の視点が「人間文化課程」の人材養成に大きく資するからである。

## II 教育課程編成の考え方と特色

### (a) 基本構成と特色

[体系的・段階的なカリキュラム設定とスタジオ科目による実践的トレーニング]

人間文化課程の授業科目名は、次のような原則で付けられている。

- 〇概論・基礎論:基本技能や基本的な知識の習得についての科目
- 〇I:基本的な知識から内容を深めていく科目
- 〇II:高度な知識および実践的、応用的な内容に触れる科目
- 〇A、○〇B:同程度だが、別ジャンルや種類を扱う科目

### ① 体系的・段階的に区分された選択必修科目による、基礎的技能と知識の育成

#### ○芸術文化コース

##### 「芸術文化論」I A～II B

現代アートに関する諸問題の理解、映像音響芸術、文芸についての現代的な知識と状況を理解し、将来、いかなる方向性が可能なかを思考する力を養う。

##### 「現代文化論」A～D

現代文化についての理論的な局面についての理解を深め、現代文化の大きな部分を占めているサブカルチャーの多様な局面について知識を与える。

##### 「思想と文化」I A～II B

芸術文化の根本にある思想について一般的な理解を深めた後に、現代思想を彩る多くの思想家についての文章に触れる。

##### 「文化マネジメント論」I II

横浜で具体的に行われているアートマネジメントの実践について解説し、実習の中にどんなアートマネジメントが可能なかを考える。

#### ○社会文化コース

##### 「文化学の技法」I A～II B

文化・社会が多様化し、複雑な諸問題が生じている現状の中で、それらを解決してゆくための基本的視座を与え、将来にわたる文化・社会の持続的発展に貢献しうる人材を育成することを念頭に、人類がこれまで産み出してきた哲学的、思想的知見を用いて、人間存在の本質について批判的に思考すると共に、来るべき社会について構想しうる力を養う。文化学の技法 I において基礎論、文化学の技法 II において応用論を学ぶ。

##### 「多元文化論」I A～II B

多様な文化的背景を持つ人々の出会いと混交が急速に進展する事態を理解するために、これまでの世界の歴史に見られた多様な経験を生かす力を養うと共に、国際社会における新たな交流と協力へと到るための道筋を構想し、様々な文化間を媒介するための能力を涵養する。多元文化論 I において基礎論、多元文化論 II において応用論を学ぶ。

##### 「共生社会論」I A～II B

多様性を増しつつある社会の現状を認識する視座を学ぶと共に、多元的共生社会の構築という社会的要請に対応しうる力を養う。特に、多元的共生社会へと導くための社会的な理念や現実、その将来的な展望について学ぶ。共生社会論 I において基礎論、共生社会論 II において応用論を学ぶ。

##### 「国際学」I A～II B

国際社会の現状についての理論的な局面での理解を深めると共に、開発支援や紛争解決などの具体的な問題に関わる知識を与える。また、日本という存在が世界の中で有している歴史的・文化的位置付けを理解し、今後世界の中で果たすべき役割などの観点から客観的に捉える視座を養う。国際学 I において基礎論、国際学 II において応用論を学ぶ。

「グローバリゼーションと地域社会」ⅠⅡ

グローバル化が進展する中、とりわけ日本から世界へ積極的に発信できる能力を有した人材の輩出を念頭に、アジアを始め世界の文化・社会について学ぶ過程で、各国語の高度な運用能力を取得する。異文化理解の技法Ⅰにおいて基礎論、異文化理解の技法Ⅱにおいて応用論を学ぶ。

「異文化理解の技法」ⅠA～ⅡB

グローバル化が進展する中、とりわけ日本から世界へ積極的に発信できる能力を有した人材の輩出を念頭に、アジアを始め世界の文化・社会について学ぶ過程で、各国語の高度な運用能力を取得する。異文化理解の技法Ⅰにおいて基礎論、異文化理解の技法Ⅱにおいて応用論を学ぶ。

「社会分析の技法」ⅠA～ⅡB

文化の多様性や共生社会といった分野における理解と実践力を身につけつつ、実社会における即戦力となるべく、社会調査士の資格を取得するための知識と技法を身につける。社会分析の技法Ⅰにおいて基礎論、社会分析の技法Ⅱにおいて応用論を学んだ後、社会調査士の資格を取得する。

②スタジオ科目について

人間文化課程の両コース(芸術文化コース、社会文化コース)では、大学と社会との連携を人文社会系教育においても深め、従来の座学での学びを拡充・補完するために、Y-GSA(横浜建築都市スクール)で活用されている「スタジオ式教育」を参考にした「スタジオ科目」を必修科目として設ける。

人間文化課程における「スタジオ科目」とは、実践的な問題解決能力の充実にを図ることを目的としている。大学の教室での講義科目が、理論的な指導を中心にするのに対して、「スタジオ科目」では、実践性に重点を置く。具体的な課題が常に存在し、教員が履修者とともに、その課題に向かって議論を進めながら実現を図る。課題が存在しているのは、実際の社会においてのことであり、「スタジオ科目」は狭い教室に閉じこもることなく、「芸術文化コース」では、横浜市に点在するアート・スポットと協働しながら作業を進めることによって、課題に挑み、「社会文化コース」では、横浜市を中心に課題が存在する実際の場所をフィールドにし、ときには、そこで活動するNPOの人々と協働しながら課題に挑んでいく。こうした「スタジオ科目」では、人間文化課程を担当する常勤教員全員、そして必要に応じて実務家を非常勤講師として交えた複数の教員の指導により、現実社会のフィールドに根ざした学習と実践的プロジェクトを実施していく。「スタジオ科目」は芸術文化コースで常に5科目程度、社会文化コースで常に8科目程度開講され、それぞれのスタジオに各学年12名程度が参加し、実践的な教育が行われる。

現行のマルチメディア文化課程(メディア研究講座)・国際共生社会課程で行われてきた「ワークショップ科目」、および従来は授業科目外のために、教員が指導・援助する「学外活動」のかたちで行われてきた文化・社会活動は、各課程の教育内容と密接に関係し、有益な相互作用を生み出しているが、教育体系において明確に位置づけられていないため、その効果が広く共有されていないきらいがある。人間文化課程においてはこれらの試みを「スタジオ科目」としてカリキュラム化し、従来の座学との往還を可能にするシステムを構築することで、新しい人間文化課程の実践的教育的柱として位置づけなおし、必須科目として一層の充実に図る。半期2単位とする。

従来の専門教育の考え方は異なり、目的意識を大学生生活の早期から高めるために、人間文化課程では「スタジオ科目」を1年次の後期から導入する。そして、各自の関心と目的意識に合わせた履修を、3年次の後期まで続け、これまでの成果を4年次において課題演習・卒業研究として結実させる。こうした集約的効果を上げるため、「スタジオ科目」の履修は累積的に行うものとする。すなわち、「スタジオⅠ(入門)」(1年・後学期)→「スタジオⅡ(基礎)」(2年次前学期)→「スタジオⅢ(応用)」(2年・後学期)→「スタジオⅣ(創造的実践)」(3年・前学期)→「スタジオⅤ(創造的実践)」(3年・後学期)。コース選択前の「スタジオⅠ(入門)」(1年・後学期)を除いては、所属するコースの「スタジオ科目」を履修することになる。

芸術文化コースにおいては美術、映像、文芸、音響芸術、批評などの分野にまたがる「芸術文化論」や「現代文化論」での学習を踏まえたスタジオを、社会文化コースにおいては国際交流、多文化共生、地域研究、社会調査・社会分析などを主題とする「共生社会論」や「国際学」、「異文化理解の技法」、「社会分析の技法」での学習を踏まえたスタジオを開設する予定である。

教員と学生が少人数制でインテンシブな作業をする大学院の「スタジオ式教育」とは異なり、人間文化課程の「スタジオ科目」では、学年を縦断する中規模の数の学生を対象とする。また、当然ながら学部生全員が先端的な活動を行えるわけではない。

しかしながら、学年を縦断して継続するプロジェクトに学部段階から取り組むことは、自らの探求意識・問題関心を協同作業のなかで深めるための重要な機会になる。同時に、課題設定から実際の「解決」・「試行錯誤」の積み重ねに至るプロセスから、相互のコミュニケーション能力とリーダーシップを涵養するための価値ある現場にもなる。ともに学生たち自身が立てた問題が、現実の文化・社会の中で別の問題に遭遇し、それらの問題解決のプロセスを実地で学習することができるようになる。

もちろん大学院に進学して、学部レベルの「スタジオ」経験にさらに磨きをかけ、文化・社会に創造的に貢献できる即戦力のメディエーターや、クリエイターになることも可能である。なお、大学院レベルの「スタジオ」を経験した優秀な大学院生は、人間文化課程の「スタジオ科目」においてティーチング・アシスタントとして活用し、「スタジオ」経験の良好な循環も図る。

[	36	88	124
		20	
	48		
	36		
	10		
	10		
	16		
	20		
	12		
124		20	



	2 3 4 3 4 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4		2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2					1 1 2	1 1						1 3 1 1 1 1 1 1
34		30	30	0			15	4	2	1	0	10			
	2 3 4 4 3 4 4	2 2 2 2 2 2 4					1 10 10 10 10 10 10	5 5 5 5 5 5							
(7		16	0	0			10	5	0	0	0				
	3 4 3 4 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 2 3 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 2 3 4 3 4 2 3 4 4	2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2					1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 1 3 1 1	1 1 1 2 1 2		1 1 1 1 1 1 1		1 1 1 1 1 1 1			1 1 1 1 1 1 1
17		0	32	0			8	4	0	1	0	3			
		50	116	0			25	10	2	1	0	16			



		B	2 3 4		2					1			1			
		C	2 3 4		2											
		D	2 3 4		2						1					
		E	2 3 4		2				1							
		A	2 3 4		2				1							
		B	2 3 4		2					1						
		C	2 3 4		2								1			
		D	2 3 4		2				1							
			A	2 3 4		2					1			1		
			B	2 3 4		2						1		1		
			C	2 3 4		2								1		
			D	2 3 4		2				1				1		
				2 3 4		2								1		
			35			12	58	0			14	8	3	0	0	6
					3		2				9	7	3			
	3				2				9	7	3					
	4				2				9	7	3					
	4				2				9	7	3					
	4				2				9	7	3					
	5			10	0	0			9	7	3	0	0			
		CG	2 3 4		2									1		
			2 3 4		2						1				1	
			2 3 4		2											
			3 4		2											
			3 4		2					1						
			3 4		2					1						
			3 4		2						1					
			2 3 4		2					1						
			3 4		2					1						
			3 4		2							1				
			2 3 4		2					1						
			3 4		2					1						
			3 4		2							1				
			2 3 4		2										1	
			3 4		2										1	
			3 4		2										1	
			A	2 3 4		2									1	
			B	2 3 4		2									1	
			C	2 3 4		2									1	
			A	2 3 4		2					1					
B	2 3 4		2									1				
C	2 3 4		2					1								
	F	2 3 4		2				1					1			
		2 3 4		2									1			
		2 3 4		2				1					1			
		2 3 4		2									1			
	B	2 3 4		2				1					1			
		2 3 4		2									1			
		2 3 4		2									1			
		2 3 4		2									1			
		2 3 4		2									1			
		2 3 4		2									1			
	30			0	60	0			8	4	1	0	0	11		
				26	172	0			24	12	3	0	0	20		







